

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
心理学		理学療法学科/1年	2019/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	大久保 智生
授業の概要				
心理学の各領域について概説し、心理学の基礎的知識を習得する。前半(第2回~第8回)は、心理学の基礎について概説し、後半(第9回~第13回)は、身近な心に関する問題からわかりやすく解説していく予定である。				
授業終了時の到達目標				
心理学の基礎に触れることを通じて、人間理解の方法を深める。また、心に関する様々な問題に対して、多角的な視点からの思考を可能にする。				
回	テーマ	内容		
1	ガイダンス	心理学を学ぶことの意味 心理学の各領域の研究紹介		
2	心理学とは	知覚心理学、学習心理学、発達心理学、性格心理学、自己心理学、家族心理学、社会心理学の説明		
3	知覚	知覚すること、図と地、錯視、知覚の主観性 物理的環境と心理的環境		
4	記憶	記憶のメカニズム、記憶の変容、想起時につくられる記憶、自伝的記憶、偽の記憶		
5	心理測定	心理測定とは、 心理測定の種類		
6	犯罪	犯罪心理学とは、プロファイリングとは 犯罪別の心理学		
7	性格	性格を捉える、性格の形成と変容に関する理論 性格の形成要因		
8	学習	学習の重要性、新たな行動様式の学習メカニズム やる気 と無気力		
9	動機づけ	生理的動機づけ、社会的動機づけ 社会的動機: 達成動機づけ、内発的動機づけなど		
10	認知、目撃証言	犯罪目撃証言の信頼性について		
11	いじめ、ハラスメント	いじめの定義と類型、いじめの集団力学 ハラスメントとは、ハラスメントの35種類		
12	学力低下、虐待	学力低下問題における指摘、学校問題と非学校問題 虐待 の種類、虐待経験がもたらすもの		
13	対人関係、対人認知	対人認知について コミュニケーションと対人行動		
14	適応	適応と不適応		
15	発達	発達とは、発達段階と発達課題 発達移行期、文化と発達期待		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・授業資料配付		期末試験	100.0%	【準備学習】 前回配布の資料を 読み直すこと。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
情報科学		理学療法学科/1年	2019/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	井内 健二
授業の概要				
「情報」の意味および価値を理解するとともに、一般情報のデジタル化、さらにデジタル化された情報をIT (Information Technology) を使って有効な形態に加工し活用する技術を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
業務上のレポート作成、データ集計資料作成、Web上での情報検索、プレゼンテーション資料作成など情報活用技術全般の基礎を習得する。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	授業内容の紹介、パソコン起動、フォルダ作成、文章入力 ファイル保存、印刷、PCのシャットダウン		
2	フォルダ作成と圧縮ファイルの解凍 タイピング練習ソフトでタッチタイピング練習	フォルダ作成、ミカタイプの圧縮ファイルの解凍法 ミカタイプの使い方、ミカタイプでタイピング練習		
3	社内文書の作成	「社内研修のお知らせ」の作成		
4	社内文書の作成2	「社内研修のお知らせ」の作成(続き)		
5	社内文書の作成3	「資産運用セミナー開催のご案内」の作成		
6	インフォーマルな文書の作成	「同期親睦会のご案内」の作成		
7	Excelデータ入力 「スケジュール表」作成	EXCELの画面の説明 スケジュール表を計算式を利用して作成		
8	「個別売上表」(Excel)作成	「個別売上表」(Excel)作成		
9	Excelでグラフ作成とワードの 差し込み印刷	Excelでグラフ作成 ワードの差し込み印刷		
10	プレゼンテーション	プレゼンテーションの仕方 色の話、簡単なスライド作成		
11	Power Pointについて(基本操作)	「プレゼンテーションテクニック」の作成		
12	ワードでレポート作成の学習	ケーススタディの作成練習 サンプルファイルのダウンロード		
13	Power Pointを使って プレゼンテーションの作成	「プレゼンテーションテクニック」の作成(続き)		
14	ワードファイルからパワーポイント ファイルへの連携法の学習	ワードファイルからパワーポイントファイルへの連携法の 学習		
15	ワードのレポート作成に便利な機能 の学習	クイックパーツの登録、Snipping Toolの使い方 スクリーンショットの使い方		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・資料配布		課題・レポート	100.0%	【準備学習】 前回配布の資料を 読み直すこと。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生化学		理学療法学科/1年	2019/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	宇山 徹
授業の概要				
生物は絶えず何かしらの反応を生体内で行っており、そこには多様な分子が関与している。生化学の授業では、生体内での生命現象を分子レベル、つまりタンパク質や遺伝子がどのように制御されているのかを学ぶ事を目的とする。また、糖質、脂質やビタミンなどの分子についても理解を深める。				
授業終了時の到達目標				
生化学の授業の内容に沿った試験を行うことで、個人の生化学の授業の理解度を高める。				
回	テーマ	内容		
1	細胞の構造	細胞の基本骨格である細胞膜や核などの構造について学ぶ		
2	細胞骨格	細胞の構造を維持している細胞内タンパク質などについて学ぶ		
3	細胞の増殖、死およびアミノ酸の性質	細胞の増殖や死がどのように制御されているかを学ぶまた、タンパク質を構成しているアミノ酸についても学ぶ		
4	たんぱく質の構造、核酸、糖類について	タンパク質の基本構造、DNAを構成している核酸、グルコースなどに代表される糖質について学ぶ		
5	核酸、糖質、脂質について	核酸、糖質、脂質の構造や機能などについて学ぶ		
6	脂質、酵素、ビタミンについて	脂質やビタミンについて学ぶ また、生体内での反応を触媒する酵素について学ぶ		
7	酵素、ビタミン、ホルモンについて	酵素、ビタミン、内分泌に関わるホルモンについて学ぶ		
8	ホルモン、輸送たんぱく質、受容体について	ホルモン、物質の輸送に関わる輸送タンパク質、細胞外からの刺激を細胞内へと伝達する受容体などについて学ぶ		
9	受容体たんぱく質、防御たんぱく質(免疫)について	受容体タンパク質、免疫や生体防御に関わる防御タンパク質について学ぶ		
10	防御たんぱく質、構造たんぱく質について	防御タンパク質、細胞-細胞間を構成する細胞外マトリックスなどに存在する構造タンパク質について学ぶ		
11	遺伝子の構造、DNAの複製	遺伝子やDNAの意味、細胞分裂時にDNAが複製される機構について学ぶ		
12	DNAの複製、染色体、細胞分裂について	DNAの複製、染色体の構造と細胞分裂との関係などについて学ぶ		
13	転写、翻訳、細胞分裂について	遺伝子からRNAが転写される機構について学ぶ		
14	たんぱく質への翻訳	RNAからタンパク質がどのように翻訳されるかについて学ぶ		
15	今までの講義の演習問題	今まで行ってきた講義内容に関連する選択問題や記述問題を実施する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・はじめの一步イラスト生化学・分子生物学(羊土社)		期末試験	100.0%	【準備学習】 前回配布の資料を読み直すこと。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
統計学		理学療法学科/1年	2019/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	藤田 和憲
授業の概要				
つぎの項目が主とした目的・ねらいである。 <ul style="list-style-type: none"> ・基本統計量の計算になれる。 ・確率変数 ・各種分布を理解する。 ・各種の統計量の推定の意味を理解する。 ・各種の統計量の検定の意味を理解する。 				
授業終了時の到達目標				
以下の項目等が達成されることを到達目標とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・基本統計量が計算できる。 ・確率変数 ・各種分布を適用できる。 ・相関係数、回帰直線を求めることができる。 ・平均値、比率、適合度、独立性の検定ができる。 				
回	テーマ	内 容		
1	データ解析と統計学の必要性について	高校の数学 I におけるデータ分析の復習		
2	偏差平方和、分散、標準偏差の計算	分散の計算を正確に行えるよう適宜、定理を使用して計算を行う		
3	散布図、共分散、相関係数、回帰直線	偏差の積和の計算について		
4	回帰直線による予測	回帰直線を使用してデータの予測をする		
5	事象の確立、確率分布、確率変数の期待値	事象の確立の定義に基づいて、確率問題をとく		
6	二項分布、正規分布と正規分布表	二項分布と正規分布表による確率計算をとく		
7	データの標準化、正規分布の応用	一般の正規分布の確率計算を行う		
8	中心極限定理、母平均の区間確定	標本平均の値により、母平均の推定を行う		
9	母比率の区間推定、母平均の両側検定	推定比率誤差の計算などを行う		
10	母平均の片側検定、t 分布、t 分布表、母平均の区間推定	母平均の片側検定の例題などを行う		
11	母平均の t 検定、Excel による統計解析	母平均の両側 t 検定を行う		
12	適合度検定、独立性の検定	適合度検定と独立性の検定を行う		
13	独立性の検定など	独立性の検定、条件付きの確立などを行う		
14	統計関数、相関係数の検定	Excel の統計関数、相関係数の検定を行う		
15	まとめ	二項分布の正規分布近以、大標本における平均値の差の両側検定を行う		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・PT・OTのための統計学入門 (三輪書店)		期末試験	100.0%	【準備学習】 前回配布の資料を読み直すこと。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
教育学		理学療法学科/1年	2019/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	柳澤 良明
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> 日本の教育のしくみおよび日本の教育問題に関する理解を深める。 自らの担当するテーマについて論理的に説明することのできる力を身につける。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> クライアントとの関係において求められる教育的な考え方を習得する。 理学療法士および作業療法士として求められるプレゼンテーション能力および対話力を身につける。 				
回	テーマ	内容		
1	授業のテーマおよび方法を理解する	発表を行うための班づくりを行い、班員で交流する		
2	教育の二側面を理解する	自らの経験に即して、教育の二側面を理解する		
3	記憶と学習の仕組みを理解する	記憶と学習のしくみを説明する		
4	学校変革のセオリー(1)	セオリー1「教職員が自分の正解を疑えば、学校は変わる」の内容を理解する		
5	学校変革のセオリー(2)	セオリー2「変革への意思を持てば、新たな一步を踏み出せる」の内容を理解する		
6	学校変革のセオリー(3)	セオリー3「生徒のリアリティから出発すれば、生徒は本気になる」の内容を理解する		
7	学校変革のセオリー(4)	セオリー4「生徒の言葉を聞けば、新たな価値観を獲得できる」の内容を理解する		
8	学校変革のセオリー(5)	セオリー5「公の場で議論すれば、最も現実的な解決策が見つかる」の内容を理解する		
9	学校変革のセオリー(6)	セオリー6「生徒が授業について本気になれば、授業は変わる」の内容を理解する		
10	学校変革のセオリー(7)	セオリー7「生徒も教職員も主体者になれば、やる気は高まる」の内容を理解する		
11	学校変革のセオリー(8)	セオリー8「一步を踏み出せば、課題がつかめる」の内容を理解する		
12	学校変革のセオリー(9)	セオリー9「学校づくりに参加すれば、保護者も教職員も熱くなる」の内容を理解する		
13	学校変革のセオリー(10)	セオリー10「生徒、保護者、教職員が語り合えば、三者は変革の知恵袋になる」の内容を理解する		
14	学校変革のセオリー(11)	セオリー11「変革の主役になれば、誇りが生まれる」の内容を理解する		
15	学校変革のセオリー(12)	セオリー12「本音で語り合えば、信頼関係は深まる」について理解する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> 学校変革のセオリー(学事出版) 必要に応じてプリントも配布する。 		課題・レポート	100.0%	【準備授業】 前回配布の資料を読み直すこと。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会福祉学		理学療法学科/1年	2019/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	辰巳 裕子
授業の概要				
<p>理学療法士の業務の場は、医療機関や老人保健施設および社会福祉施設に併設される医療機関のみならず、地域活動、学校などのあらゆる分野にわたっている。本講義では、多様な実践現場で活動する際に求められる社会福祉に関する歴史・制度・政策等の基礎的な知識を習得し、近年の社会福祉の動向と課題について学ぶ。さらには、地域生活支援を行う際に求められる地域の社会資源を理解する。</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における社会福祉の意義を理解し、社会福祉の歴史及び社会福祉に関する知識を修得する。 ・社会福祉の動向や課題について説明することができる。 ・社会福祉の制度や法律等に関する知識を修得する。 ・社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組みについて理解し、説明することができる。 				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション 社会福祉の理解	社会福祉の目的概念と社会保障		
2	家族・地域社会の変化	家族・地域の変化とそれに伴う支援		
3	社会福祉の歩み①	諸外国における社会福祉のあゆみ		
4	社会福祉の歩み②	日本における社会福祉のあゆみ		
5	社会保険制度について①	年金保険制度 医療保険制度		
6	社会保険制度について②	労働者災害補償制度 雇用保険・介護保険制度		
7	児童福祉に関する制度	児童福祉の歴史 児童に関する法制度と実施機関および内容		
8	障害者福祉に関する制度	障害者福祉の歴史 障害者に関する法制度と実施機関と内容		
9	高齢者福祉に関する制度①	高齢者福祉の歴史 現在の制度と課題		
10	高齢者福祉に関する制度②	介護保険制度について		
11	生活保護制度	生活保護制度 ホームレス		
12	生活に困窮する世帯の支援制度 社会福祉従事者と専門職倫理	生活困窮者自立支援制度について 社会福祉に関する専門職の理解と倫理		
13	地域福祉に関する理解	地域福祉の理解 地域福祉の推進組織と担い手		
14	権利擁護	虐待防止法 成年後見制度		
15	近年の社会福祉施策の動向	貧困問題 地域包括ケアシステム構築と今後の課題		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・社会福祉概論(中央法規出版)		提出物 定期試験	20.0% 80.0%	【準備学習】 事前に教科書を読んでおくこと。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人間工学		理学療法学科/1年	2019/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	田中 裕介(実務経験有)
授業の概要				
立位、立ち上がり動作の運動学的分析方法を身につける。				
【実務経験】田中 裕介：理学療法士として5年以上の実務経験 病院勤務経験を活かし、姿勢や動作分析をイメージしやすく授業を展開する。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトの安定性に関わる因子を挙げることができる。 ・安静立位姿勢、立ち上がり動作について見るべきポイントを列挙、観察し、文章化出来る。 ・正常歩行周期を述べる事が出来る。 				
回	テーマ	内容		
1	人間工学の概要説明	<ul style="list-style-type: none"> ・日常における人間工学の考え方の紹介 ・臥位から立ち上がりまでの用語説明 		
2	力学①	<ul style="list-style-type: none"> ・つり合いの原理(モーメントについての理解) 		
3	力学②	<ul style="list-style-type: none"> ・ベクトルの合成と分解 ・傾斜台での荷重量計算 		
4	立位姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・基本姿勢における重心の位置 ・立位アライメントの確認 		
5	立位姿勢の制御①	<ul style="list-style-type: none"> ・重心と支持基底面との関係性 		
6	立位姿勢の制御②	<ul style="list-style-type: none"> ・立位時の足関節における床反力と関節モーメントとの関係性 		
7	立位姿勢の制御③	<ul style="list-style-type: none"> ・立位時の膝関節における床反力と関節モーメントとの関係性 		
8	立位姿勢の制御④	<ul style="list-style-type: none"> ・立位時の股関節における床反力と関節モーメントとの関係性 		
9	立位姿勢の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・立位姿勢分析方法のポイント説明 ・立位分析(文章化) 		
10	立ち上がり動作①	<ul style="list-style-type: none"> ・立ち上がり動作での重心と支持基底面との関係 		
11	立ち上がり動作②	<ul style="list-style-type: none"> ・立ち上がり動作のシーケンス 		
12	立ち上がり動作③	<ul style="list-style-type: none"> ・立ち上がり動作の筋活動 		
13	立ち上がり動作評価	<ul style="list-style-type: none"> ・立ち上がり動作分析のポイント説明 ・立ち上がり動作分析(文章化) 		
14	歩行	<ul style="list-style-type: none"> ・正常な歩行周期 		
15	授業のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床でトランスファーなどでの授業内容活用方法紹介、授業全体の振り返り 		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎運動学 第6版 (医歯薬出版) ・基礎バイオメカニクス第2版 (医歯薬出版) 		期末試験	100.0%	【準備学習】 参考資料を授業前に確認しておくこと。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
物理学		理学療法学科/1年	2019/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	伊藤 寛
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・身近な現象から力と運動について学ぶ。 ・圧力を理解する。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・重力下の力の働きを理解する。 ・重心を理解する。 ・運動の法則を理解する。 ・圧力を理解する。 				
回	テーマ	内容		
1	はじめに どんなことをなぜ学ぶのか	物理学的事例を提示し、物理学を学ぶ意義を理解する		
2	地上の運動概念、速度、加速度	身の回りで経験する運動の物理量、ベクトル量、速度 加速度		
3	水平、垂直落下速度・加速度 万有引力	加速度運動と等速運動 万有引力と重力		
4	等速度運動と慣性	ニュートンの運動の法則		
5	運動の法則と実験	作用と反作用について		
6	物体はどのように運動するか 運動方程式、運動の法則	運動法則に関するまとめ 色々な力		
7	摩擦力、弾性力	弾性カーフックの法則、斜面の運動の復習		
8	圧力	水柱の圧力 大気圧 パスカルの原理など		
9	モーメントー物体の重心は どこにある	重心と安定性		
10	エネルギーとは? その保存則、まず仕事	仕事と仕事率など		
11	運動エネルギーと位置エネルギー	運動エネルギーと仕事エネルギーについて学ぶ		
12	エネルギーは保存する 力学的エネルギー保存則	力学的エネルギーとその保存則について		
13	運動量とは? 運動量保存則	運動量 力積 相対速度		
14	熱とは? 熱エネルギーとは?	ボイルの法則 シャルルの法則など		
15	電気に関する知識	1~14までの復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・まるわかり 基礎物理! (南山堂)		期末試験、課題レポート で総合的に評価する。	100.0%	【準備学習】 参考資料を授業前 に確認しておくこ と。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
医療接遇		理学療法学科/1年	2019/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	平岡 英樹、坂口千恵美 宮内貴志子、谷渕加奈子 (実務経験有)
授業の概要				
<p>医療従事者の対象は健康問題をもつ対象とその家族である。健康回復を支援する理学療法士・作業療法士として、自分が支援する対象の価値観や個別性を尊重し、信頼関係を構築することは健康回復を支援する上で必要不可欠である。また、チーム医療を担う一員として、他の医療従事者や関係職種との信頼関係樹立も対象の健康回復を支援する上では重要である。</p> <p>本科目では、社会人として、医療チームの一員として「患者さんの障害をともに共有する気持ち」を大切にできる医療従事者を目指してコミュニケーション・スキルを学ぶ。</p> <p>【実務経験】 平岡 英樹：理学療法士として5年以上の実務経験 坂口千恵美：理学療法士として5年以上の実務経験 宮内貴志子：理学療法士として5年以上の実務経験 谷渕加奈子：作業療法士として5年以上の実務経験 医療施設、介護保険関連施設での従事経験を交えながら、医療従事者に必要な対人スキルについて教授する。</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの基本を理解し、医療従事者を目指すものとしてコミュニケーションの必要性を説明できる。 ・社会人として、医療従事者として、対人関係に必要なマナーの基本を身につける。 ・被援助者との信頼関係の樹立や保健医療福祉関係者との円滑な意思疎通を図る上で必要な、コミュニケーション技術を身につける。 ・自己のコミュニケーションの特徴が説明できる。 				
1	コミュニケーションについて考えよう	コミュニケーションとは		
2	ケア・コミュニケーションの基本的な考え	1. コミュニケーションを考える視点 2. 医療におけるコミュニケーションの役割		
3	被援助者との関係を築くコミュニケーション 1	好感・信頼感を高めるコミュニケーション		
4	被援助者との関係を築くコミュニケーション 2	敬意を伝えるコミュニケーション		
5	被援助者の理解と情報の交換、行動化の支援 1	1. 受容と共感 2. 苦情やトラブル対応		
6	被援助者の理解と情報の交換、行動化の支援 2	1. 説明と同意 2. 主体的な選択や行動を引き出す		
7	チームワークとコミュニケーション	1. チームの一員として仕事を進める 2. 建設的な対応		
8	その人らしさを大切にするコミュニケーション	1. 「敬意を伝えるコミュニケーション」 2. 丁寧語、尊敬語、謙譲語への言い換え 3. 被援助者の呼び方		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・ケア・コミュニケーション(ウイネット) ・患者対応マナーBOOK. 医学通信社 		期末試験	100.0%	【準備学習】 次回の準備内容を踏まえて予習する。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人間育成学 I		理学療法学科/1年	2019/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	中嶋 志保、田中 裕介 (実務経験有)
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・医療人としての人間性、資質を培う。 ・問題解決のための自己学習の手続きを学ぶ。 ・文献をまとめることで、文章の書き方や表出方法を学ぶ。 <p>【実務経験】中嶋 志保：理学療法士として5年以上の実務経験 田中 裕介：理学療法士として5年以上の実務経験 理学療法士としての病院勤務経験を活かし、問題解決のための自己学習プロセスを教示すると共に、情報共有についても言及する。</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・文献の選択、文章の理解、疑問の抽出と解決までの流れが実行できる。 ・テーマに基づいて文献を集め、整理することができる。 ・適切な語句を用いて文章表現ができる。 ・適切な言葉を用いて発表ができる。 				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション 構成的グループエンカウンター	科目のねらい、到達目標について		
2	グループ課題発表 1	1・2年合同グループでの課題発表		
3	グループ課題発表 2	1・2年合同グループでの課題発表		
4	グループ課題発表 3	1・2年合同グループでの課題発表		
5	グループ課題発表 4	1・2年合同グループでの課題発表		
6	グループ課題発表 5	1・2年合同グループでの課題発表		
7	グループ課題発表 6	1・2年合同グループでの課題発表		
8	グループ課題発表 7	1・2年合同グループでの課題発表		
9	グループ課題発表 8	1・2年合同グループでの課題発表		
10	グループ課題発表 9	1・2年合同グループでの課題発表		
11	グループ課題発表 10	1・2年合同グループでの課題発表		
12	グループ課題発表 11	1・2年合同グループでの課題発表		
13	グループ課題発表 12	1・2年合同グループでの課題発表		
14	グループ課題発表 13	1・2年合同グループでの課題発表		
15	グループ課題発表 14	1・2年合同グループでの課題発表		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・各種書籍、資料等		総合判定	100.0%	【準備学習】 評価学のテキスト に目を通すこと。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
英語		理学療法学科/1年	2019/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	T. R. マティソン
授業の概要				
医学英語・リハビリテーション基礎英語を勉強し、練習する。				
授業終了時の到達目標				
医学英語・リハビリテーション基礎英語が理解、使用できる。				
回	テーマ	内容		
1	A. Pronunciation Practice: L, R B. Rehabilitation English: Fields, Services & Professionals	A. 基本発音練習(L, R) B. リハビリテーション英語: 領域・専門家		
2	A. Pronunciation Practice: L, R B. PT/OT, Rehabilitation Sites	A. 基本発音練習(L, R) B. PT・OT, リハビリテーションの現場		
3	A. Pronunciation Practice: F, V, B, P B. Fundamentals of the Human Body	A. 基本発音練習(F, V, B, P) B. 人体の基礎知識		
4	A. Pronunciation Practice: S, SH, TH B. Body Structure: Skeletal System	A. 基本発音練習(S, SH, TH) B. 人体の構造: 骨格系		
5	A. Pronunciation Practice: A, E, O B. Body Structure: Vertebral Column, Bones & Joints	A. 基本発音練習(A, E, O) B. 人体の構造: 脊柱・骨・関節		
6	A. Pronunciation Practice: EA/EE, I, O, U B. Body Structure: Muscular System	A. 基本発音練習(EA/EE, I, O, U) B. 人体の構造: 筋肉系		
7	A. Pronunciation Practice: AR, ER, IR, OR, UR B. Body Structure: Nervous System	A. 基本発音練習(AR, ER, IR, OR, UR) B. 人体の構造: 神経系		
8	A. Pronunciation Practice: A, AN, THE B. Body Structure: Nervous Subsystems	A. 基本発音練習(A, AN, THE) B. 人体の構造: 神経系, サブ系と様々な働き		
9	Bone Fractures: Classification & Treatment	骨折・分類と治療・大腿骨頸部骨折の運動療法		
10	Chronic Back Pain	慢性腰痛・腰痛の運動療法		
11	Arthritis	関節炎・変形性膝関節症の運動療法・関節リウマチの運動療法		
12	Sports Injury	スポーツ傷害・スポーツ外傷・傷害療法		
13	Parkinson's Disease	パーキンソン病・脳卒中・片麻痺の患者の日常動作		
14	Dysphagia & Translation Exercise 1	嚥下障害・英文の和訳実習①		
15	Chronic Obstructive Pulmonary Disease & Translation Exercise 2	慢性閉塞性肺疾患・英文の和訳実習②		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・リハビリテーションの基礎英語(MEDICAL VIEW) ・配布プリント		期末試験	100.0%	【準備学習】事前にテキストに目を通しておくこと。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学 I		理学療法学科/1年	2019/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(30時間)	必須	松本 由樹(実務経験有)

授業の概要

解剖学は、医学の基礎であり人体の正常な構造を理解する学問である。必要な解剖学名を正確に覚えなければならないが、単に構造や器官の名称を記憶するだけではなく、それぞれの生理機能を同時に理解しなければならない。

【実務経験】松本 由樹：死体解剖有資格者として2年以上の実務経験
医学科での死体解剖、解剖学の教授経験をもとに授業を展開する。

授業終了時の到達目標

到達目標としては、正常な人体の構造(内臓、血管、神経、筋肉などの位置、構造、働き)を理解し、正常と正常でない状態の違いを見分ける能力を身につけることである。

回	テーマ	内容
1	解剖で何を学ぶか？ 解剖学用語とは何か？	私たちが他人とコミュニケーションを行う為には、共通の言語をお互い使いこなさなければなりません。医療従事者の共通語の一つとして解剖学用語を知る必要がある。
2	人体の構成と個体差について	細胞の構造と機能について学習する。特に、各組織を構成する細胞の集まりと、その成り立ちについても学習する。
3	細胞-組織-器官-系統」を学ぶ	本講義では、細胞が集まり組織を作り、組織の集まりが器官、器官系の成り立ちに重要である事を総説する。
4	体をつなぐ組織の話	人体の組織には四種類ある。上皮組織・支持組織・筋組織・神経組織について総説を行い、解剖学を理解する上で重要な組織の役割について学習する。
5	骨格系の総論	骨格系の役割について理解し、細胞レベルでの特徴(破壊と再生)について学習する。造血作用と骨格系の関係についても学習する。全身にはいくつの骨があり、どのように連結しているかについて学習する。
6	体幹と体肢を構成する骨(数と形)	体幹および体肢の区分と、体にある数々の空間について説明を行う。実際に骨格標本を触りながら学習を進める。
7	体幹を構成する骨 (顔面、頭蓋、胸郭)	体を支える骨組みについて説明し、体を支える骨の役割以外にも重要である事を学ぶ。全身の骨の形や数について学び、哺乳類に共通する骨があることを知る。
8	体肢を構成する骨 (上肢帯:鎖骨,肩甲骨 下肢帯:骨盤)	我々の四肢を構成する骨は、自由上肢骨と自由下肢骨に分ける事ができる。本講義では、これらあわせた体肢が体幹と連結する特徴的な構造について学習する。
9	関節の基本構造と骨の連結	骨の連結を三種類に大別し、安定性と可動性を比較する。間接の特徴について概説し、運動を表す言葉について学習する。
10	関節の分類	関節を作る骨の数、運動軸、関節面の形態による分類について学習し、関節の機能との関係を説明する。
11	上肢帯と自由上肢骨について	自由上肢帯について説明を行い、それらの骨同士の連結について説明を行う。特に、鎖骨と胸骨と肩甲骨の連結、肩甲骨と上腕骨が作る関節について学習する。
12	上肢で観察できる特徴的な靭帯 (肩・肘関節を覆うもの)について	上肢骨についての説明を行い、主に、上腕部、前腕部、手部における骨同士の連結について説明を行う。授業の後半部には、肩甲骨と上腕骨が作る関節や、肘や手首の関節についても学習する。
13	下肢帯と自由下肢骨について	自由下肢帯について説明を行い、左右の寛骨と仙骨が連結して骨盤部をつくり、寛骨が大腿骨と如何に連結し下肢を構成するかについて学習する。
14	下肢で観察できる特徴的な靭帯 (股・膝関節を覆うもの)について	下肢骨についての説明を行い、主に、大腿部、下腿部、足部における骨同士の連結について説明を行う。
15	靭帯の各論について学習する 頭、頸、脊柱間の靭帯の特徴と機能	靭帯を構成する組織の特徴について理解し、運動を行う際の動作の方向性を決定に如何に関わるかを説明する。特に、頸部や脊柱における靭帯は、生命を維持する上でもっとも重要な部位である。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学 I		理学療法学科/1年	2019/前期	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位 (30時間)	必須	松本 由樹(実務経験有)
回	テーマ	内容		
16	手根部、足根部にある靭帯と機能	手根部や足根部にある靭帯は、不安定性を保持することで可動域が確保されている。指先や足先に停止する筋の多くは、この部位において靭帯により強く抑えられることで、運動性を保持できる理由について学習する。		
17	筋の概説、骨と筋の付着について	消化器系や動脈にある平滑筋、心臓にある心筋、そして運動器系にある横紋筋の特徴について学習する。随意筋と不随意筋について学習し、神経支配による違いによりもたらされる事を学習します。		
18	筋の起始・停止、関節の運動について	筋肉には、頭と尾に分ける事ができる。筋頭は起始をつくり、筋尾は停止をなす。筋肉の起始と停止を学習する際には、鼠の運動をイメージし、起始と停止の成り立ちについて理解していく。		
19	上肢の筋と構造、上肢帯と体幹をつなぐ筋(総論)	上肢帯(肩甲骨、鎖骨)と体幹をつなぐ筋は7種類存在する事を学び、機能的に区分できるまで学習する。肩関節を取り巻く筋について説明を行います。		
20	肩甲骨と上腕をつなぐ筋、肘関節を越える筋	体幹前面にある大胸筋、上腕外側にある三角筋の2種類の筋は、鎖骨に起始・停止を持つ特徴を持ち、残る7種類の筋は、肩甲骨と上腕をつなぐ筋として分類できる。予習しておく。		
21	上腕・前腕における屈筋と伸筋	上腕と前腕における筋は、肘の関節を屈曲させる為に働く「屈筋」と、まっすぐ伸ばす伸展運動に関わる「伸筋」に分ける事ができる。筋の起始と停止について学習します。		
22	手根管を通る筋(腱)の種類、手の固有筋(小指球、母指球、骨間筋)	手根管の構成は、手根骨に突起をもつ4つの骨(大菱形骨、舟状骨、有鉤骨、豆状骨)の上にある屈筋支帯により作られた空間を意味しており、その中を通る腱の種類や神経、血管について学習する。		
23	下肢の筋と構造(総論)	下肢にある筋の構造と役割の違いを学習し、下肢と体幹をつなぐ下肢帯の重要な役割について学習します。下肢帯のを構成する筋は、骨盤周辺にあり、内寛骨筋と外寛骨筋に区分できます。		
24	下肢帯・体幹と大腿をつなぐ筋	下肢帯の筋のうち、骨盤の外側にある回旋筋群について学習し、起始と停止、筋が作るくぼみや溝の特徴を学ぶ。特に、大坐骨孔をまたぐ梨状筋が構成する上孔と下孔を説明します。		
25	大腿と下腿における屈筋と伸筋	骨盤後面の坐骨結節に起始を持つ筋は、下腿を構成する脛骨と腓骨に停止する。これらの筋は膝関節をまたぎ、膝窩の上縁を構成する。		
26	足根管を通る筋(腱)、足底筋について	足根部にある靭帯は、前面の上・下の伸筋支帯、外側面の上・下の腓骨筋支帯、内側面の屈筋支帯を挙げられ、これらは、下腿を構成する筋(腱)が走行し、足根骨、中足骨底に停止する特徴的な構造を有している。		
27	顔面の筋、頸部浅層の筋	頭部にある筋は、私たちの表情を作り出す表層にある浅頭筋(表情筋)と顎の運動に関わる深頭筋(咀嚼筋)に区分できるが、筋の起始・停止における特徴的な違いについて学習する。		
28	体幹に起始・停止をもつ筋(舌骨上・下筋群、浅胸筋、深胸筋)	舌骨上筋群、舌骨下筋群には、口をあける運動と、嚥下運動に関わる事が知られているが、前者は脳神経による支配を受け、後者は頸神経ワナによる支配を受ける特徴的な違いを学習する。		
29	腹部・横隔膜・背部の筋について	腹部の筋は、前部、側部、後部、骨盤部に特徴的な腹筋が走行し、各自違いについて説明する。脊柱の運動と安定性に関わる背部の筋の特徴について学習する。		
30	筋や骨が作る窪みや溝について	後頸三角、額下三角、頸動脈三角、外側腋窩隙、内転筋腱裂孔、内側二頭筋溝、腰三角、スカルパ三角、斜角筋隙、梨状筋上孔、梨状筋下孔などについて自身でその場所を正しく指し示す事ができる。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> 標準理学療法学・作業療法学 解剖学 (医学書院) プロメテウス解剖学コアアトラス (医学書院) トートラ人体解剖生理学 (丸善出版) 		期末試験 確認テスト 課題・レポート	80.0% 10.0% 10.0%	【準備学習】 教科書を授業前に確認しておくこと。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学Ⅱ		理学療法学科/1年	2019/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	川崎 淨教

授業の概要

解剖学は、医学の基礎であり人体の正常な構造を理解する学問である。分野として、肉眼解剖学、骨学、組織学、発生学、神経解剖学等がある。解剖学では、必要な解剖学名は覚えなければならないが、単に構造や名称を憶えるだけではなく、それぞれの生理機能を同時に理解しなければならない。

授業終了時の到達目標

- ・さまざまな生命現象が起こる場としての人体の構造および形態について、肉眼レベルから顕微鏡レベルまで学習する。形態と機能の関係を正しく理解し、正常と正常でない状態の違いを見分ける能力を身につける。
- ・臓器(胸部・腹部・骨盤内臓)の位置と構造、血管、リンパ管、神経、筋肉、骨格などの位置、走行とその働きを理解する。

回	テーマ	内容
1	人体の区分、解剖学的位置	解剖学の定義を理解する
2	器官と器官系について	人体を構成する器官系を理解する
3	細胞の構造と機能について1	受動輸送と能動輸送を理解する 組織の分類を理解する
4	細胞の構造と機能について2	皮膚の構造と機能を理解する
5	骨格系と骨の連結について1	骨の構造や骨格系の名称を理解する
6	骨格系と骨の連結について2	骨の連結の構造の分類を理解する
7	筋組織の種類と機能について1	筋組織の種類と機能を理解する
8	筋組織の種類と機能について2	筋組織の構造を理解する
9	神経組織、中枢神経、脊髄神経と脳神経について1	神経系の構成を理解する
10	神経組織、中枢神経、脊髄神経と脳神経について2	体性神経と自律神経の主要な構造と機能を理解する
11	体性感覚について1	触覚、温度感覚、痛覚の受容器の存在する場所を理解する
12	体性感覚について2	触覚、温度感覚、痛覚の受容器の機能を理解する
13	ホルモンと内分泌系について1	ホルモンの種類を理解する
14	ホルモンと内分泌系について2	ホルモンの作用メカニズムを理解する
15	前半部分の復習1	1～7回までの復習を行う

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学Ⅱ		理学療法学科/1年	2019/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	川崎 淨教
授業の概要				
回	テーマ	内容		
16	前半部分の復習2	8～14回までの復習を行う		
17	心臓血管系、心臓、血管と循環について1	心臓の位置を理解する		
18	心臓血管系、心臓、血管と循環について2	心臓の構造を理解する		
19	リンパ系と免疫について1	リンパ系の構成要素を理解する		
20	リンパ系と免疫について2	リンパ系の主な機能を理解する		
21	呼吸器系について1	呼吸器系を構成する器官の構造を理解する		
22	呼吸器系について2	呼吸器系を構成する器官の機能を理解する		
23	消化器系と栄養と代謝について1	消化のメカニズムを理解する		
24	消化器系と栄養と代謝について2	吸収の作用メカニズムを理解する		
25	泌尿器系、体液、電解質と酸・塩基平衡について1	泌尿器系と構成要素を理解する		
26	泌尿器系、体液、電解質と酸・塩基平衡について2	泌尿器系の機能を理解する		
27	生殖器系、発生と遺伝について1	生殖器の位置、構造を理解する		
28	生殖器系、発生と遺伝について2	生殖器の機能を理解する		
29	後半部分の復習1	15～22回までの復習を行う		
30	後半部分の復習2	23～30回までの復習を行う		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・標準理学療法学・作業療法学 解剖学 (医学書院) ・プロメテウス解剖学コアアトラス (医学書院) ・トートラ人体解剖生理学 (丸善出版) 		期末試験	100.0%	【準備学習】教科書を授業前に確認しておくこと。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学Ⅲ		理学療法学科/1年	2019/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(30時間)	必須	松本 由樹(実務経験有)
授業の概要				
後期の講義においては、骨格筋の運動が脳からの指令によりどのように調節されるかについて学習する。正式な解剖学用語としての筋の名称を理解する為は、前期で学習した骨名や骨表面にある筋の付着部位名を確実に理解し、筋名の成り立ちを知る。				
【実務経験】松本 由樹：死体解剖有資格者として2年以上の実務経験 医学科での死体解剖、解剖学の教授経験をもとに授業を展開する。				
授業終了時の到達目標				
到達目標としては、正常な人体の構造(内臓、血管、神経、筋肉などの位置、構造、働き)を理解し、正常と正常でない状態の違いを見分ける能力を身につけることである。				
回	テーマ	内 容		
1	頭蓋腔(脳)・胸腔(肺)・腹腔(臓器)・骨盤腔(臓器)への血液供給	人体は骨格で囲まれた4つの体腔があり、それぞれの空間に臓器が収められている。本講義では、胸腔、腹腔、骨盤腔に収められている内臓について学習し、血管分布の特徴について学習します。		
2	血管について (動脈、静脈、リンパ)	血液が循環する血管系とリンパが流れるリンパ系についての特徴について学習する。		
3	動脈系について (小循環、大循環について)	動脈系はすべて左心室から出る1本の太い血管から分岐し、酸素分圧が高い血液が全身へ届けられる血管走行について学習します。		
4	心臓について	心臓は膜に包まれ縦隔内に位置するが、胸部の左側に局在することを理解する。心臓内部の特徴的な構造、刺激伝導系について学習する。		
5	脳・肺への血液供給	脳への血液供給は、内頸動脈と椎骨動脈により行われ、頸部での血管走行の特徴について学習します。肺では外呼吸と内呼吸における、ガス交換の特徴を学ぶ。		
6	体幹・体肢への血液供給	これまでの知識をまとめる事で、学習効率を上げる方法について学習します。知識の整理を目的とした講義を行います。		
7	静脈系(体幹・体肢)について	体表や体壁を走行する静脈は、特徴的な血管走行を有しており、相違点を選択し講義します。		
8	リンパ系(一次リンパ・二次リンパの区分)について	毛細血管から浸出した組織液を総称してリンパと呼び、人体の左右でリンパの流れが異なることを学習します。機能性の保持に胸腺や脾臓がある事も学習します。		
9	特殊な循環器系と胎児循環について	深部静脈の特徴を取り上げ、循環器系①硬膜静脈洞系、②奇静脈系、③門脈系について学習する。さらに、妊娠期の胎児は、胎盤を介して栄養や酸素の摂取、並びに、老廃物の排泄を行っていることを学習する。		
10	人体の発生と3層性胚盤について	人体の発生過程は、受精と着床にはじまり、3層性胚盤の形成を経て、器官系の発生が行われる。外胚葉、中胚葉、内胚葉に区分され、それぞれの連絡様式を学習する。		
11	神経系器官(中枢・末梢神経系の区分)の発生について	神経管から発生する神経系器官について学習し、大人の大脳半球の概観に見られる構造を理解する。		
12	中枢神経系(大脳半球、小脳)について	大脳皮質と髄質における機能的な違いを学習し、特に、運動機能を司る領域は6層構造をなすが、本能行動や生命の維持に関わる領域では少ない層構造を有する意味を学ぶ。		
13	中枢神経系(脳幹、脊髄)について	脳幹は中脳、橋、延髄から構成され、脳神経の多くは脳幹に脳神経核(起始核)を有する。脊髄の髄質側と皮質側の形態的特徴を学習する。		
14	末梢神経系(脳神経、脊髄神経、自律神経系)について	頭蓋腔と脊柱管の内腔に収められる神経組織の集合体の事を、中枢神経系とする一方で、頭蓋腔や脊柱管から外部に出る神経細胞の軸索の束を、末梢神経系と区別されている事を理解する。		
15	大脳の皮質(機能局在)について	大脳半球の表面構造(溝や回)の同定を通して、前頭葉、頭頂葉、後頭葉、側頭葉に区分できる事や機能局在について学習します。		

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学Ⅲ		理学療法学科/1年	2019/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(30時間)	必須	松本 由樹(実務経験有)
回	テーマ	内容		
16	脳の髄質(大脳辺縁系と大脳基底核)について	解剖学的に大脳基底核は、扁桃核、淡蒼球、被殻、尾状核、前障により構成される事を学ぶ。大脳辺縁系は、大脳半球の内側面で側脳室を取り囲む古皮質と原皮質に分類される事を学ぶ。		
17	脊髄の機能と構造について 運動性伝導路について	脊髄に固有の運動反射を特に脊髄反射とし、伸張・屈伸反射と呼ぶ。脊髄を走行する神経回路として皮質脊髄路、赤核脊髄路、網様体脊髄路等を学ぶ。		
18	脊髄の機能と構造について 感覚性伝導路について	脊髄を上行する感覚路(後索・内側毛帯、脊髄視床路(脊髄毛帯系)、後脊髄小脳路)を学ぶ。間脳の視床を通る感覚情報について感覚の種類や経路判定について学ぶ。		
19	感覚受容器(各論)について	眼球の構造を理解し、虹彩、毛様体、脈絡膜を説明できる。眼球の内膜には、網膜があり光の強さと色を伝える。平衡聴覚器は外耳、中耳、内耳に区分でき、鼓室は中耳に所在する事等学ぶ。		
20	末梢神経系-脊髄神経(頭頸部)	脊髄に出入りする末梢神経(脊髄神経)を再確認し、頸神経、胸神経、腰神経、仙骨神経、尾骨神経からなる。顔面の体性感覚は、三叉神経を介して伝えられる事に始まり、後頭部は顔面と異なる感覚路を学ぶ。		
21	末梢神経系-脊髄神経(上肢)	脊髄を出入りする末梢神経の前根は運動性(求心性)線維からなり、後根は知覚性(求心性)線維からなる事を学習する。		
22	末梢神経系-脊髄神経 (体幹、骨盤周辺、内臓神経)	後根をとる神経線維は偽単極性神経線維の神経細胞体が集合し、知覚性の脊髄神経節(後根神経節)を構成することを学ぶ。		
23	末梢神経系-脊髄神経(下肢)	脊髄神経の後枝は、吻合することなく分節的な構造を保つことで、デルマトームを形成する事を理解する。頸神経叢、腕神経叢、腰神経叢、仙骨神経叢、陰部神経叢の形成について学ぶ。		
24	末梢神経系-脳神経(総論)	嗅神経は嗅覚、視神経は視覚を、動眼神経と滑車神経および外転神経は外眼筋を支配する。三叉神経は顔面知覚と咀嚼筋を支配し、顔面神経は表情筋、涙・顎下・舌下腺等の副交感性支配と味覚を司ること学ぶ。		
25	末梢神経系-脳神経(各論)	内耳神経、舌咽神経、迷走神経、副神経、舌下神経の走行や支配する筋などの役割について学ぶ。		
26	末梢神経系-自律神経系 (交感・副交感神経)	胸髄灰白質に同定できる側索を学び、自律神経線維の特徴を説明できることを目指す。前根を通る交感神経繊維、灰白交通枝、白交通枝の違いを説明でき、交感神経幹、大・小内臓神経の支配と成り立ちを学習する。		
27	内分泌・外分泌の違いについて (含:甲状腺、性腺)	自律神経系や内分泌系の最高中枢としての視床下部について整理し、体内環境(体温、pH、浸透圧、血糖値)のセンサーとして機能し、ホメオスタシス(恒常性)の維持に関わることを学習する。視床下部は性機能の中枢としても機能することを理解し、内分泌と外分泌を学ぶ。		
28	泌尿生殖器系、循環器系について	腎臓の構造を学び、原尿をろ過し再吸収する構造的な特徴を学ぶ。腎動脈・静脈、尿管が出入りする腎門を理解し、皮質と髄質について学ぶ。		
29	消化器系、呼吸器系について	消化器は、食道、咽頭、横隔膜(食道裂孔)を通過し腹腔に至り、続く胃は噴門で食道、幽門で十二指腸に連結する事を学ぶ。小腸は十二指腸、空腸、回腸に区分でき、十二指腸には、膵管と総胆管が開く事を学ぶ。大腸は、盲腸、結腸、直腸に区分され、肛門に至ることを学習する。		
30	前期と後期のまとめ 座学と実習を通じた総括	1年間を通して解剖を学ぶことは、テキストに書かれている平面的(2D)な情報を立体視(3D)できる力を養うことにもつながります。1年間学習した事を振り返りながら、立体視できるか確認を行う。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・標準理学療法学・作業療法学 解剖学 (医学書院) ・プロメテウス解剖学コアアトラス (医学書院) ・トートラ人体解剖生理学 (丸善出版) 		期末試験 確認テスト 課題・レポート	80.0% 10.0% 10.0%	【準備学習】 教科書を授業前に確認しておくこと。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学実習		理学療法学科/1年	2019/通年	演習・実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	松本由樹、山内高圓(実務経験有) 田中裕介、中嶋志保、大川麻美

授業の概要

人体を構成する器官は、立体的に体格を構築すると共に、体腔内に立体的に納まっている。立体的な認識を得るためには、丁寧な予習に裏付けられた知識と実習室における系統的な観察が重要であり、構造と機能の相関理解に努めることで目的は達成できる。同時に篤志献体された方々のご厚意に触れ、医療人としてあるべき姿を心に刻む。

【実務経験】 松本 由樹：死体解剖有資格者として2年以上の実務経験
 山内 高圓：医科大学での死体解剖助手として5年以上の実務経験
 医科大学での死体解剖に従事した経験交えながら実習見学を展開する。

授業終了時の到達目標

- ・人体の基本構造を学習し、筋骨格系、末梢神経系、脈管系、内臓系の構造と機能を理解する。
- ・人体の立体的構造を立体視できる。

回	テーマ	内容
1	スケッチ学習1	上肢帯の骨と筋のスケッチ
2	スケッチ学習2	下肢帯の骨と筋のスケッチ
3	スケッチ学習3	スケッチ復習
4	グループ成果発表1	骨の構造と骨変化の課題
5	グループ成果発表2	筋の構造と収縮連関の課題
6	グループ成果発表3	神経の構造と伝導・シナプス伝達の課題
7	グループ成果発表4	上肢帯の神経と血管の走行の課題
8	グループ成果発表5	下肢帯の神経と血管の走行の課題
9	解剖実習見学	筋骨格系の形と走行、神経血管系との位置関係を観察
10	グループ成果発表6	呼吸器系の課題
11	グループ成果発表7	循環系の課題
12	グループ成果発表8	消化器系の課題
13	グループ成果発表9	泌尿器系の課題
14	グループ成果発表10	内分泌系の課題
15	解剖実習見学	胸腔内と腹腔内の臓器と血管系走行の位置関係、臓器の内部構造の観察

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・解剖学(医学書院) ・解剖学コアアトラス(医学書院) ・トートラ人体解剖生理学(丸善出版) 	習熟度試験(2回) グループ成果発表	50.0% 50.0%	【準備学習】 教科書を授業前に確認しておくこと。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
体表面解剖学 I		理学療法学科/1年	2019/前期	実技
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	田中裕介(実務経験有)
授業の概要				
・体表面に骨、靭帯、筋、神経、血管などの位置や走行を投影し、触察できるようになる。				
【実務経験】田中 裕介：理学療法士として5年以上の実務経験 治療で活用してきた触診技術を学生がイメージしやすく授業を展開する。				
授業終了時の到達目標				
・上肢帯の骨と関節を触察できる。 ・上肢帯の筋を触察できる。 ・上肢帯の血管を触察できる。				
回	テーマ	内容		
1	触察のための基本技術と注意事項、 身体の構造と動き	触診の基礎と技術(種類、指のあて方) 組織構造の違いと触察 ・身体部位の名称と動きの方向		
2	肩甲骨・鎖骨の触診	肩甲骨・鎖骨の骨の名称 肩甲骨・鎖骨の各部位の触診実習		
3	肩鎖関節および胸鎖関節の触察 上腕骨の骨指標の触察	肩鎖関節および胸鎖関節の動きの確認 烏口突起、三角筋粗面、大・小結節、結節間溝の触察		
4	前腕の骨指標の触診	尺骨の触察(肘頭、肘頭窩、尺骨体、尺骨茎状突起) 橈骨の触察(橈骨頭、橈骨茎状突起、リスター結節)		
5	手根骨と中手骨の触察	豆状骨、三角骨、有鉤骨、舟状骨、大菱形骨、小菱形骨 有頭骨、月状骨の触察、中手骨の触察		
6	肩関節周囲筋の触察	三角筋、大胸筋、棘上筋、棘下筋、小円筋の触察		
7	肩関節周囲筋の触察	肩甲下筋、前鋸筋、広背筋、大円筋の触察		
8	上腕部の筋群、動脈の触察	上腕二頭筋、上腕筋、烏口腕筋、上腕三頭筋、上腕動脈の触察		
9	胸部、背部の触察	小胸筋、菱形筋群、僧帽筋の触察		
10	前腕の筋群の触察	肘筋、円回内筋、方形回内筋、回外筋の触察		
11	前腕の筋群の触察	長掌筋、橈側手根屈筋、尺側手根屈筋、浅指屈筋、深指屈筋の触察		
12	前腕の筋群の触察	長橈側手根伸筋、短橈側手根伸筋、総指伸筋の触察		
13	前腕の筋群の触察	尺側手根伸筋、小指伸筋、示指伸筋の触察		
14	母指球筋の触察 小指球筋の触察	母指対立筋、短母指外転筋、短母指屈筋、母指内転筋、 小指外転筋、小指屈筋、小指対立筋の触察 虫様筋、掌側・背側骨間筋の作用の理解		
15	授業のまとめ	提示された課題の触察練習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・運動療法のための機能解剖学的触診技術 「上肢」(メジカルビュー)		期末試験	100.0%	【準備学習】 教科書を授業前に 確認しておくこと 。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
体表面解剖学Ⅱ		理学療法学科/1年	2019/後期	実技
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	田中 裕介(実務経験有)
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・体表面に骨、靭帯、筋、神経、血管などの位置や走行を投影し、触察できるようになる。 <p>【実務経験】田中 裕介：理学療法士として5年以上の実務経験 治療で活用してきた触診技術を学生がイメージしやすく授業を展開する。</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・体幹の筋を触察できる。 ・下肢帯の骨を触察できる。 ・下肢帯の筋を触察できる。 ・下肢帯の血管を触察できる。 				
回	テーマ	内容		
1	下肢骨指標の触察	腸骨稜、ASIS、PSISの触察方法のデモンストレーション 大腿骨の転子部構造の触察方法のデモンストレーション		
2	下肢骨指標の触察	膝蓋骨の触察方法のデモンストレーション 下腿骨の骨隆起部の触察方法のデモンストレーション 足根骨の触察方法のデモンストレーション		
3	股関節前面の筋群の触察	腸骨筋、大腰筋の触察、大腿三角部の触察 大腿動脈、神経の触察		
4	大腿前面・外側の筋群・靭帯の触察	縫工筋、大腿筋膜張筋、腸脛靭帯の触察		
5	殿部の筋群の触察	殿部の浅層筋群(大殿筋、中殿筋)の触察		
6	殿部の筋群の触察	殿部の深層筋群(外旋筋群)の触察		
7	大腿部内側の筋群の触診	内転筋群(恥骨筋、長内転筋、大内転筋、薄筋)の触察		
8	大腿前面の筋群の触診	大腿四頭筋(大腿四頭筋、内側広筋、外側広筋、中間広筋)の触察		
9	大腿後面の筋群の触察	半腱様筋、半膜様筋、大腿二頭筋、膝窩筋の触察		
10	下腿前面の筋群の触察	前脛骨筋、長趾伸筋、長母趾伸筋の触察		
11	下腿前面の筋群の触察	短趾伸筋、長腓骨筋、短腓骨筋の触察		
12	下腿後面の筋群の触察	腓腹筋、足底筋、ヒラメ筋、後脛骨筋、長母趾屈筋、長趾屈筋の触察		
13	足底部の筋群の触察	母趾外転筋、小趾外転筋、短趾屈筋の触察		
14	体幹の筋群の触診	腰方形筋、胸鎖乳突筋、前斜角筋・中斜角筋、腹直筋、内外腹斜筋、腰部多裂筋の触察		
15	まとめ	提示された課題の触察練習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・運動療法のための機能解剖学的触診技術「下肢・体幹」(メジカルビュー)		期末試験	100.0%	【準備学習】教科書を授業前に確認しておくこと。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生理学 I		理学療法学科/1年	2019/前期	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位 (30時間)	必須	加太 英明
授業の概要				
動物に特徴的とみなされる生体の高次機能について理解する。				
授業終了時の到達目標				
神経機能、運動、感覚、内分泌による調節などの高次の生命活動について、個々の役割と機能を理解しそれらが相互に協調して働いていることを理解する。				
回	テーマ	内容		
1	生理学とは	多細胞生物の成り立ち		
2	神経細胞について	神経系の分類について		
3	神経の興奮の伝導と伝達について	イオンチャンネルの働きと分極 活動電位の発生機構		
4	中枢神経について	中枢神経の分類と役割 脊髄、脳幹、間脳の機能と役割		
5	大脳の機能について	大脳皮質、大脳基底核、大脳辺縁系の機能について		
6	末梢神経について	末梢神経の分類 中枢神経から末梢神経への出入り口		
7	自律神経について	交感神経、副交感神経の走行など		
8	筋肉について	骨格筋の構造 筋収縮のしくみなど		
9	運動について	随意運動に関する脳部位 運動単位と α 運動ニューロン		
10	小脳、大脳皮質について	小脳の調節や区分の機能分担について		
11	体性感覚について	感覚の種類 感覚受容器について		
12	視覚、聴覚について	目の構造、遠近や光量の調節について		
13	平衡感覚、味覚、嗅覚について	平衡感覚 神経の種類について		
14	内分泌について	ホルモンの作用や分類について		
15	生殖について	性ホルモンの作用について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・生理学 コメディカルのための専門分野テキスト (中外医学社)		中間テスト 期末試験	50% 50%	【準備学習】 教科書を授業前に確認しておくこと。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生理学Ⅱ		理学療法学科/1年	2019/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	加太 英明
授業の概要				
生体の内部環境を好適に保つための機能のうち、生命維持に不可欠な基本的機能について理解する。				
授業終了時の到達目標				
血液と体液、循環、呼吸、消化吸収、代謝、排泄などの個々の機能と役割を理解し、生理学Ⅰで学んだ機能と共に、生命現象は、各機能が協調して維持されていることを理解する。				
回	テーマ	内容		
1	老化について	平均寿命や老化の原因について理解する		
2	血液の組成と機能について	血液の組成、血液の性質について		
3	白血球とその役割について	白血球の種類と役割。血球の分化		
4	血小板、血漿について	血漿タンパク質、血小板の役割		
5	心臓の構造と機能について	循環経路や心臓の構造		
6	血管の構造と機能について	大動脈、細動脈、毛細血管などについて		
7	循環の調節、特殊領域の循環について	血圧の測定法。循環の局所的調節など		
8	呼吸について	外呼吸や内呼吸、肺の機能について		
9	消化吸収について	消化吸収の意味、消化器官について		
10	小腸、大腸における消化吸収について	小腸の役割、運動、消化について		
11	代謝と栄養について 1	栄養素と代謝、糖質の代謝について		
12	代謝と栄養について 2	脂質代謝について		
13	体温について	核心温度、外殻温度などについて		
14	尿の生成と排泄について	腎臓の役割、尿の生成など		
15	尿の生成と排泄 体液について	尿や体液の生成について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・生理学 コメディカルのための専門分野テキスト (中外医学社)		中間テスト 期末試験	50% 50%	【準備学習】 教科書を授業前に確認しておくこと。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動生理学 I		理学療法学科/1年	2019/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	中嶋 志保(実務経験有)
授業の概要				
<p>本科目は、1年前期に学習した解剖学や生理学の基礎知識を土台にして、運動が発現するまでの一連の流れ、および運動の制御機構について学習する。また解剖学、生理学といった科目別の知識を運動発現をテーマに統合する。</p> <p>【実務経験】中嶋 志保：理学療法士として5年以上の実務経験 臨床での運動療法時におこる生体反応に結びつけて授業を展開する。</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 随意運動が発現するまでの一連の流れが説明できる。 ・ 運動制御、感覚系の役割、フィードフォワードとフィードバックの違いを含めて説明できる。 				
回	テーマ	内容		
1	導入(何を学ぶのか)	運動生理学と他の科目の関係 運動発現までの大まかな流れ		
2	骨格筋の構造	関節運動を起こす骨格筋の構造について		
3	興奮収縮連関	骨格筋の収縮メカニズムについて		
4	運動単位とその動員	骨格筋を構成する運動単位と筋収縮の関係について		
5	筋の収縮様式	筋の様々な収縮パターンを具体的な動作と併せて学ぶ		
6	筋張力に影響を与える因子	筋の発揮する張力と影響を与える因子について		
7	筋の感覚受容器	筋の感覚受容器とその役割について		
8	運動制御1 ①脊髄による運動制御	脊髄レベルで行われる運動のコントロールについて		
9	運動制御1 ②Ia抑制、Ib抑制	伸筋と屈筋のコントロールについて		
10	運動制御2 ①大脳皮質の構造	大脳皮質の構造とその機能について		
11	運動制御2 ②情報を伝える伝導路	上行性伝導路と下行性伝導路について		
12	運動制御2 ③大脳皮質と運動関連領域	運動にかかわる皮質部位とその役割について		
13	運動制御2 ④大脳基底核と運動制御	大脳基底核と運動の関係について		
14	運動制御2 ⑤小脳と運動制御	小脳と運動の関係について		
15	まとめ(何を学んだか)	随意運動が完遂する一連の流れを復習する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 標準理学療法学 運動療法学 総論 (医学書院)		期末試験	100.0%	【準備学習】 該当する解剖学、 生理学のテキスト に目を通し、用語 をおさえておくこ と。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動学 I		理学療法学科/1年	2019/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	中嶋 志保(実務経験有)
授業の概要				
<p>本科目では、人体の構造と機能の点から、四肢及び体幹の機能解剖について理解し、運動療法や動作分析に必要な基本的事項を学習する。</p> <p>【実務経験】中嶋 志保：理学療法士として5年以上の実務経験 正常運動理論を臨床でどのように活用するかについて教授する。</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・関節運動について、作用する筋および運動を正しい用語で説明できる。 ・主要な関節について関節構成体の構造と機能を理解する。 ・骨運動に伴う関節包内運動が説明できる。 				
回	テーマ	内容		
1	運動学とは 運動表記における基本的用語	運動学とはどのような学問か 面と軸、関節の種類、関節の運動方向		
2	骨の構造と連結	骨の構造 関節の名称、形状分類		
3	滑膜性連結の基本的構造	滑膜性連結の基本的構造 関節包内運動		
4	上肢帯の機能解剖	上肢帯(肩甲帯)とは 肩甲骨の動きと筋		
5	肩関節の構造と機能 1	解剖学的関節と機能的関節 胸鎖関節、肩鎖関節		
6	肩関節の構造と機能 2	肩甲胸郭関節、肩甲上腕関節		
7	肩関節の構造と機能 3	腱板の機能、上腕二頭筋長頭腱の機能、その他 第2肩関節の構造と機能		
8	肩関節 まとめ	肩の挙上に際して、鎖骨、肩甲骨、上腕骨の動き 機能肢位、ゼロポジション		
9	肘関節の構造と機能 1	骨の形態的特徴、靭帯の機能、肘部管、Carrying angle		
10	肘関節の構造と機能 2	肘関節の運動と筋		
11	手関節と手の運動 1	手関節と手の構成要素(骨、関節、靭帯)		
12	手関節と手の運動 2	手関節の構造と運動 手根管、Guyon管		
13	手関節と手の運動 3	手の運動と筋(外在筋と内在筋)		
14	手関節と手の運動 4	手のアーチ、握り 変形(伸展機構の障害と末梢神経障害)		
15	上肢 まとめ	各関節のキーワード		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・PT・OTのための運動学テキスト (金原出版)		期末試験	100.0%	【準備学習】 解剖学の授業と並行 するため、該当する 関節について解剖学 テキストで名称を確 認しておくこと。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動学Ⅱ		理学療法学科/1年	2019/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	中嶋 志保(実務経験有)
授業の概要				
<p>本科目では、人体の構造と機能の点から、四肢及び体幹の機能解剖について理解し、運動療法や動作分析に必要な基本的事項を学習する。</p> <p>【実務経験】中嶋 志保：理学療法士として5年以上の実務経験 正常運動理論を臨床でどのように活用するかについて教授する。</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・関節運動について、作用する筋および運動を正しい用語で説明できる。 ・主要な関節について関節構成体の構造と機能を理解する。 ・骨運動に伴う関節包内運動が説明できる。 				
回	テーマ	内 容		
1	股関節の構造と機能 1	股関節の形態と特徴		
2	股関節の構造と機能 2	アライメントと各指標		
3	股関節の構造と機能 3	股関節の運動と筋		
4	股関節の構造と機能 4	股関節のバイオメカニクス		
5	膝関節の構造と機能 1	膝関節の構成体と機能 膝蓋大腿関節の構造と機能		
6	膝関節の構造と機能 2	脛骨大腿関節の構造と機能		
7	膝関節の構造と機能 3	膝関節のアライメントと安定性		
8	膝関節の構造と機能 4	膝関節の運動、膝の伸展機構		
9	足関節の構造と機能 1	足関節、足部の構成体と機能 足関節の運動		
10	足関節の構造と機能 2	足のアーチ 足部の変形		
11	脊柱の構造と機能	脊柱の一般的構造 脊柱の靭帯、脊椎と脊髄		
12	頸椎の構造と機能	頸椎の運動と筋		
13	胸椎および胸郭の構造と機能	胸椎・胸郭の構造と運動 呼吸運動と筋		
14	腰椎および骨盤の構造と機能	腰椎の構造と運動、腰椎と骨盤の関係 仙腸関節及び仙骨の運動		
15	下肢、体幹 まとめ	各関節のキーワード		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・PT・OTのための運動学テキスト (金原出版)		期末試験	100.0%	【準備学習】 解剖学の授業と並行 するため、該当する 関節について解剖学 テキストで名称を確 認しておくこと。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人間発達学		理学療法学科/1年	2019/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	宮内 貴志子
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・胎児期から老年期に至るまでの、身体的な変化及び精神的な発達とそれぞれの時期の特徴を学ぶ。 ・発達スクリーニング検査などツールを学ぶ。 ・新生児期より歩行を獲得するまでの反射や反応について学ぶ。 <p>【実務経験】宮内貴志子：理学療法士として5年以上の実務経験 小児理学療法の臨床経験を活かし、実例を挙げながら伝える。</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・発達の一般原則、発達理論の概略を理解する。 ・発育・発達関係する因子を説明でき、発育・発達に与える影響と理論を理解する。 ・正常な運動発達を理解し、障害学への学びにつなげる事が出来る。 				
回	テーマ	内容		
1	人間発達学総論	人間発達とは 発達の理論・発達にみられる諸原則		
2	人間の発達(胎児期について)	発達段階と課題について(総論) 胎児期の発達(子宮内環境について)		
3	人間の発達 (出産と新生児期について)	出生に伴う呼吸や心臓機能の変化 胎児循環と肺呼吸		
4	乳児期の発達(0から3か月ころ)	原始反射(哺乳と原始反射) 姿勢の変化と身体機能		
5	乳児に発達(3から6か月頃)	乳児期の姿勢と定頸・寝返りの獲得 姿勢変化と立ち直り反応出現		
6	乳児の発達(7から9か月頃)	座位保持・四つ這い・腹ばい獲得 平衡反応の出現		
7	乳児の発達 (10から12か月ころ)	歩行の獲得 平衡反応の充実		
8	原始反射・平衡反応まとめ	脳の発達と原始反射・立ち直り反応・平衡反応の出現		
9	幼児期前半の発達・発達課題	幼児期前半の遊びと学習 母親や家族との関係		
10	発達評価について	乳幼児期の使用される発達評価		
11	幼児期の発達	目と手の協調性と発達の順序		
12	幼児期から学童期の発達	言葉の発達、遊びと発達学童期の発達(6歳から12歳)		
13	成人期の発達	自己同一性獲得		
14	青年期の発達	親世代の発達課題と役割変化について		
15	老年期の発達課題 まとめ	老年期の多様性 死の受容 総括と重要ポイント復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・イラストでわかる人間発達学(医歯薬出版) ・配布資料 		期末試験 課題・レポート	90.0% 10.0%	【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて教科書を用いて予習する。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
病理学		理学療法学科/1年	2019/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	山内 高圓
授業の概要				
病理学とは何か? 人類の歴史で疾患の変遷を理解する。 主な疾患の病因を理解する。				
授業終了時の到達目標				
疾患の病因に関して外因と内因について説明できる。 臓器毎に主な疾患の病因を説明できる。				
回	テーマ	内容		
1	組織細胞の修復と再生	壊死とアポトーシス、再生、創傷治癒、肉芽組織、骨折、異物処理		
2	循環障害	うっ血、充血、虚血、梗塞(血栓、塞栓)、出血、壊死、ショック		
3	炎症、感染症、免疫機構	炎症とはなにか、感染の成立、感染防御機構、免疫反応、アレルギー、自己免疫疾患		
4	腫瘍	発癌機序、良性と悪性の鑑別、腫瘍発生の要因、転移(血行性、リンパ行性、播種)、癌の疫学		
5	遺伝と先天異常	遺伝病、染色体異常症、単一遺伝子病、遺伝子診断、先天異常の病因		
6	代謝異常	糖尿病(I型、II型)、高脂血症、痛風、黄疸、アミロイドーシス、糖原病		
7	循環器と呼吸器の疾患	虚血性心疾患、心筋症、弁膜症、肺癌、肺炎、間質性肺炎、結核、気管支喘息		
8	消化器の疾患	食道癌、胃潰瘍、胃癌、大腸癌、潰瘍性大腸炎、ウイルス肝炎、肝癌、肝硬変、膵癌、胆石症		
9	内分泌系の疾患	下垂体腫瘍、甲状腺機能亢進症、橋本病、甲状腺癌、クッシング病、アジソン病、		
10	造血期の疾患	貧血の分類、白血病の分類、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、血友病		
11	泌尿器・生殖器の疾患	急性糸球体腎炎、腎癌、膀胱癌、前立腺肥大、前立腺癌、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌、乳癌		
12	運動器、皮膚の疾患	骨折、関節リウマチ、骨腫瘍、椎間板ヘルニア、軟部腫瘍、皮膚の感染症、皮膚腫瘍		
13	脳・神経系の疾患	脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血、脳腫瘍、パーキンソン病、アルツハイマー病、脱髄疾患、感染症		
14	炎症の経時的変化について	組織や細胞の壊死、充血		
15	感染症について	感染症 ウイルス 細菌		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・シンプル病理学(南江堂)		期末試験	100.0%	【準備学習】 教科書を授業前に確認しておくこと。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
一般臨床医学		理学療法学科/1年	2019/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	宮内 貴志子(実務経験有)
授業の概要				
理学療法を行うにあたり安全でスムーズに治療を実施する時に、理解していなければならないリスクや対応を学ぶ 身体所見として正常なバイタルサインと測定方法を学ぶ				
【実務経験】宮内貴志子：理学療法士として5年以上の実務経験 臨床場面でのリスク管理経験を、学生へイメージしやすいように展開する。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・リスク管理の必要性と正常値を理解する。 ・バイタルサインを測定し判断できる。 ・症状の異変や救急対応の必要性を判断できる。 				
回	テーマ	内容		
1	理学療法の実施	リハビリテーションの対象とリスク管理について リハビリ中止基準 バイタルサイン		
2	バイタルサイン	心臓の動きと脈拍 検脈		
3	バイタルサイン	心臓と血圧 血圧の変化		
4	バイタルサイン	血圧測定		
5	バイタルサイン	高血圧の基準値 薬物療法		
6	バイタルサイン	呼吸の解剖と生理 呼吸数の測定 呼吸の異常		
7	バイタルサイン	経皮的酸素飽和度と測定		
8	バイタルサイン	体温調節と発熱		
9	バイタルサイン	意識障害と症状 評価方法		
10	バイタルサインの異常	緊急時の症状 心肺蘇生の必要性		
11	バイタルサインの異常	心肺蘇生について		
12	感染と感染予防	感染経路と感染経路の遮断 標準予防策		
13	血液検査について	主な血液成分の役割と検査数値の変化		
14	薬物治療について	薬物の効果と副作用(有害事象)		
15	薬物治療について まとめ	投薬管理の必要性 まとめ ポイント復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・病気がみえる循環器・呼吸器 (メディックメディア) ・配布資料 		期末試験 課題・レポート	90.0% 10.0%	【準備学習】 前回の配布資料を 振り返りポイント を復習する。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
内科学 I		理学療法学科/1年	2019/後期	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位 (30時間)	必須	瀬尾 憲正、河合 公三 (実務経験有)
授業の概要				
内科学について、リハビリテーションに関わりの深い内容を中心に必要かつ十分な知識を習得する。				
【実務経験】 瀬尾 憲正：医師として5年以上の実務経験 河合 公三：医師として5年以上の実務経験 日常診療での各疾患の治療体系とリハ業務との接点を交えながら進める。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・病態、検査、治療という疾患理解と、からだの構造と機能の関連を理解する。 ・解剖・生理・疾患から基礎的な知識を身につける。 				
回	テーマ	内容		
1	消化器疾患 1	消化器の総論、食道・胃・十二指腸の総論と疾患について		
2	消化器疾患 2	腸・腹膜周辺の総論と疾患について		
3	消化器疾患 3	肝臓の総論と疾患について		
4	消化器疾患 4	胆道・膵臓・腹膜外傷の総論と疾患について ストーマケア、栄養管理法について		
5	循環器疾患 1	循環器の総論について		
6	循環器疾患 2	虚血性心疾患。不整脈の総論と各疾患について		
7	循環器疾患 3	先天性疾患・心臓弁膜症。心内膜炎の総論と各疾患について		
8	循環器疾患 4	心筋疾患・心膜疾患・心臓腫瘍・血管疾患・血圧異常の総論と各疾患について		
9	糖尿病・代謝・内分泌疾患 1	代謝・栄養・糖質代謝異常の総論と各疾患について		
10	糖尿病・代謝・内分泌疾患 2	脂質代謝異常・肥満・尿酸代謝異常・骨代謝異常等の総論と各疾患について		
11	糖尿病・代謝・内分泌疾患 3	栄養の異常・内分泌総論・視床下部-下垂体疾患の総論と各疾患について		
12	糖尿病・代謝・内分泌疾患 4	甲状腺疾患・副甲状腺疾患・副腎疾患・膵内分泌腫瘍等の総論と各疾患について		
13	血液疾患 1	血液総論・赤血球・白血球・造血腫瘍・急性白血病・骨髄系腫瘍の総論と各疾患について		
14	血液疾患 2	リンパ系腫瘍・造血幹細胞移植・止血機構とその異常の総論と各疾患について 輸血療法について		
15	まとめ	各分野の最近の知見、平均寿命、死因に関する分野についての絞りを、問題点をあげて教育する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・病気がみえる Vol.1 消化器 ・病気がみえる Vol.2 循環器 ・病気がみえる Vol.3 糖尿病・代謝 内分泌 ・病気が見える Vol.4 血液 (メディックメディア) 		期末試験	100.0%	【準備学習】 解剖学・生理学を復習しておくこと。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
整形外科学 I		理学療法学科/1年	2019/後期	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位 (30時間)	必須	谷野 善彦、中内 英樹 (実務経験有)
授業の概要				
整形外科の一般的疾患について病態と治療について解説する。				
<p>【実務経験】 谷野 善彦：医師として5年以上の実務経験 日常診療と外科的手術の経験談を交えながら授業を展開する。</p> <p>中内 英樹：理学療法士として5年以上の実務経験 手術後療法、保存療法の経験談を交えながら授業を展開する。</p>				
授業終了時の到達目標				
整形外科の一般的疾患に対する診断法と治療法を理解し、保存療法やリハビリテーションの実施に役立てることができる。				
回	テーマ	内容		
1	運動器の整形外科、診療の流れ	診察、症候、検査の各項目とその役割		
2	運動器の整形外科 治療	保存療法、手術療法		
3	上肢の疾患 1	肩の疾患、肘の疾患、手の疾患		
4	上肢の疾患 2	肩の疾患、肘の疾患、手の疾患		
5	足関節の疾患 1	足の構造、アーチ、変形、足関節靭帯損傷、アキレス腱断裂		
6	足関節の疾患 2	扁平足、先天性内反足、外反母趾 など		
7	まとめ	第1回から第6回までのまとめ		
8	運動器の生理	骨：骨の構造と分類、骨の成長と骨代謝 関節：関節の構造、関節軟骨の構造・機能		
9	神経	神経系の全体像、シナプス、運動と運動ニューロン		
10	筋	骨格筋の分類と構造、骨格筋の収縮と作用		
11	股関節の疾患	股関節の主な疾患、手術療法、大腿骨頭壊死、 大腿骨頭すべり症		
12	股関節の疾患、膝関節の疾患	ペルテス病、発育性股関節形成不全、半月板損傷、 膝靭帯損傷		
13	体幹の疾患 1	体幹の主な疾患、脊椎損傷、治療の流れ		
14	体幹の疾患 2	脊髄損傷、椎間板ヘルニア		
15	軟部組織・骨・関節感染症	運動器の感染症の特徴、感染経路、外科的処置 壊死性軟部組織感染症、骨髄炎、化膿性脊椎炎		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・病気がみえる vol.11 整形外科 (メディック・メディア)		期末試験	100.0%	【準備学習】 前回の配布資料や 授業内容を振り返り ポイントを復習する。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
精神医学 I		理学療法学科/1年	2019/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	嶋 宏美(実務経験有)

授業の概要

現代の精神医学の基礎について、OT、PTの日常業務に役立てられるように学んでもらう。
 国家試験に準拠した内容を十分に理解して、日常業務に役立ててもらおう。

【実務経験】 嶋 宏美：医師として5年以上の実務経験
 精神症状の具体例や患者様の表出方法等を診療経験談を交えながら説明する。

授業終了時の到達目標

精神医学概論から症状論、リエゾン精神医学などを中心に理解し、さらにリハビリテーション医学の役割、位置づけも理解する。

回	テーマ	内容
1	第1章 精神医学とは	精神医学の特色、協働領域との連携の重要性を学ぶ 精神障害の概念について学ぶ
2	第2章 精神障害の成因と分類	精神障害の3つの成因とその概念について学ぶ
3	第3章 精神機能の障害と精神症状	精神機能の種類、その障害の際に出現する精神症状について学ぶ
4	第4章 精神障害の診断と評価	精神障害の診断や評価の基本となる精神医学的診察法について学ぶ
5	第5章 脳器質性精神障害 1	脳CT、MRI、脳波などの身体的検査方法、心理検査法などの概要について学ぶ
6	第5章 脳器質性精神障害 2	脳器質性精神障害の経過による症状の特徴を学ぶ
7	第6章 症状性精神病 1	症状性精神障害の概念と症状の特徴について学ぶ
8	第6章 症状性精神病 2	症状性精神障害の基礎となる主な疾患について学ぶ
9	第7章 精神作用物質による精神及び行動の障害 1	依存症候群の定義を理解する
10	第7章 精神作用物質による精神及び行動の障害 2	アルコール・依存性薬物による精神的・社会的障害を理解する
11	第8章 てんかん 1	てんかんの概念・発作症状・精神症状の特徴について学ぶ
12	第8章 てんかん 2	てんかんの原因別の分類、主なものについて学ぶ
13	第9章 統合失調症およびその関連疾患 1	統合失調症がどのような病気かについて学ぶ
14	第9章 統合失調症およびその関連疾患 2	統合失調症の病型、診断基準を理解する
15	まとめ	今までのまとめ

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
・標準理学療法学・作業療法学 専門分野 精神医学 第2版 (医学書院)	期末試験 小テスト	55.0% 45.0%	【準備学習】 授業前に教科書を事前に確認しておくこと。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
小児科学		理学療法学科/1年	2019/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	柴崎 三郎(実務経験有)
授業の概要				
小児の急性症状への基本的対応法と診断と治療体系について学ぶ。				
【実務経験】柴崎 三郎: 医師として5年以上の実務経験 日々の診療を通してよく遭遇する小児疾患の症状について指導し、リハビリを行う上で、患者さんのご家族と子ども状態について共有できるように授業を進める。				
授業終了時の到達目標				
小児によく見られる発熱、咳嗽、鼻症状、疼痛、腹部症状、嘔吐、掻痒、発疹、外傷、打撲、脱臼について説明できると共に、救急時の基本的対応方法を理解する。 小児領域のリハビリテーションの仕事内容と重要ポイントを説明できる。				
回	テーマ	内 容		
1	小児とリハビリテーション	小児を対象にしたリハビリテーションの重要ポイントを概括する		
2	発熱と小児リハビリテーション	発熱時の基本的な対応と関連事項を理論的に理解する		
3	咳嗽と小児リハビリテーション	咳嗽時の基本的な対応と関連事項を理論的に理解する		
4	鼻症状と小児リハビリテーション	鼻症状の基本的な対応と関連事項を理論的に理解する		
5	疼痛と小児リハビリテーション	疼痛時の基本的な対応と関連事項を理論的に理解する		
6	腹部症状と小児リハビリテーション	腹部症状時の基本的な対応と関連事項を理論的に理解する		
7	嘔吐と小児リハビリテーション	嘔吐時の基本的な対応と関連事項を理論的に理解する		
8	掻痒と小児リハビリテーション	掻痒時の基本的な対応と関連事項を理論的に理解する		
9	発疹と小児リハビリテーション	発疹時の基本的な対応と関連事項を理論的に理解する		
10	外傷と小児リハビリテーション	外傷時の基本的な対応と関連事項を理論的に理解する		
11	打撲と小児リハビリテーション	打撲時の基本的な対応と関連事項を理論的に理解する		
12	脱臼と小児リハビリテーション	脱臼時の基本的な対応と関連事項を理論的に理解する		
13	救急と小児リハビリテーション	救急時の基本的な対応と関連事項を理論的に理解する		
14	小児領域のリハビリについての仕事の内容の一部を知る	現場をイメージして仕事内容を理解する		
15	グループワークで遊びのパターンを考える	沢山の遊びを考えて想像力を養う		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・子どもの病気・ケガまずの対応マニュアル (ひかりのくに)		期末試験	100.0%	【準備学習】 前回の配布資料を振り返りポイントを復習すること。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
リハビリテーション医学概論		理学療法学科/1年	2019/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	横倉 益弘(実務経験有)
授業の概要				
リハビリテーション医学の概論ではあるが、リハビリテーションの歴史から代表的な疾病、そして関連職種の説明を通してこれから学ぶ基礎医学から臨床医学、そして理学療法・作業療法の専門の基礎的知識とする。				
【実務経験】横倉 益弘: 理学療法士として5年以上の実務経験 国民健康保険病院勤務時、行政職、保健師、ヘルパーと共に連携し地域医療に従事した経験をもとに授業を進める。				
授業終了時の到達目標				
リハビリテーション医学の概要を理解しこれから学ぶ臨床医学や専門分野に対する意識を高める。				
回	テーマ	内 容		
1	リハビリテーション医学	・リハビリテーションとは ・ノーマライゼーションとは ・QOLとは		
2	リハビリテーションの理念	・リハビリテーションとは ・リハビリテーションの定義と目的		
3	病気と障害 医学的リハビリテーション	・リハビリテーションの各種定義 ・医学的リハビリテーションチームとは		
4	リハビリテーション医療1	・障害のモデルとは ・リハビリテーション医療とは		
5	リハビリテーション医療2 リハビリテーションチーム	・リハビリテーション医療とは ・リハビリテーション医療に従事する職種の特徴とは		
6	リハビリテーション治療学	・廃用、誤用、過用症候群について		
7	急性期リハビリテーション	・障害の複合性とは ・急性期リハビリテーション		
8	リハビリテーション診断学1	・評価とは		
9	リハビリテーション診断学2 リハビリテーション評価1	・リハビリテーション診断学における評価とは ・筋力検査法 ・ADLテスト		
10	リハビリテーション評価2	・リハビリテーション診断学における筋力とは		
11	リハビリテーション医学の実際1	・脳血管障害のリハビリテーション①について		
12	リハビリテーション医学の実際2	・脳血管障害のリハビリテーション②について		
13	リハビリテーション医学の実際3	・運動器疾患のリハビリテーション①について		
14	リハビリテーション医学の実際4	・運動器疾患のリハビリテーション②について		
15	まとめ	・リハビリテーション医学のまとめ ・定期試験範囲について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・学生のためのリハビリテーション医学概論 (医歯薬出版)		期末試験	100.0%	【準備学習】 ・事前に配布している授業資料を見て予習を行う。 ・リフレクションシートを使って授業の復習をする。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保健医療福祉論		理学療法学科/1年	2019/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	横倉 益弘(実務経験有)
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> 日本の社会保障制度、特にリハビリテーションに関係の深い保険(保健)制度、医療制度、福祉制度における概要と各々の問題点を諸外国と対比しながら理解を深める。 日本の医療政策や介護政策について理解を深める。 <p>【実務経験】横倉 益弘:理学療法士として5年以上の実務経験 国民健康保険病院勤務時、行政職、保健師、ヘルパーと共に連携し地域医療に従事した経験をもとに授業を進める。</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 日本の社会保障制度の背景を理解する。 リハビリテーションと各制度の関連性を理解する。 				
回	テーマ	内 容		
1	社会保障制度の概念を理解する 1	1. ガイダンス(シラバス等の説明) 2. 社会保障制度について 3. 日本国憲法25条について		
2	社会保障制度の概念を理解する 2	1. 社会生活における安全網とは 2. 社会保障制度概観 3. ライフサイクルの変化		
3	社会保障制度の概念を理解する 3 社会保障制度と構造改革 1	1. 社会保障制度概観 2. 社会保障の構造改革 3. 高齢化の特徴 4. 少子化対策		
4	医療体系1	1. 一次医療について 2. 二次医療について 3. 三次医療について		
5	医療体系 2	1. 医療圏について 2. 特殊医療について (救急医療、難病対策、終末期医療)		
6	老人の医療と福祉	1. 老人保健法と老人福祉法について 2. ゴールドプラン		
7	介護保険制度	1. 介護保険制度概観		
8	医療法とその改正 1	1. 医療法について 2. わが国の医療制度の特徴		
9	医療法とその改正 2	1. 医療法とその改正について 2. 日本の医療制度について		
10	社会保障費と医療費	1. 社会保障費と医療費について		
11	社会保障費と医療財政 医療保険制度	1. 社会保障費と医療財政について 2. 医療保険制度について		
12	診療報酬支払い制度 医療提供体制	1. 診療報酬支払い制度について 2. 医療提供体制について		
13	介護保険制度 1	1. 介護保険制度 1		
14	介護保険制度2	1. 介護保険制度2		
15	社会保障制度まとめ	1. まとめと定期試験について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> 保健医療福祉制度論(ミネルヴァ書房) 公衆衛生がみえる(メディックメディア) 社会保障入門(中央法規) 		期末試験	100.0%	【準備学習】 新聞などを通じて社会情勢、特に政治、経済、保健、医療、介護に関わる情報収集に努める。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
基礎理学療法 I		理学療法学科/1年	2019/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	横川 光代(実務経験有)
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> 骨、関節、軟骨組織の構造を学び、それらの治癒過程とバイオメカニクスの総論を学ぶ。 <p>【実務経験】横川 光代：理学療法士として5年以上の実務経験 骨・関節・軟骨の構造、治癒過程と臨床症状を関連づけて理解できるように指導する。</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 骨の組織構造、骨折の分類、骨の治癒過程を説明することができる。 関節軟骨の組織構造、軟骨の損傷と修復過程を説明することができる。 				
回	テーマ	内 容		
1	1.長管骨の機能と基本構造、骨の組成(細胞的要素)について	<ul style="list-style-type: none"> 骨の機能(支持・保護・運動・貯蔵・造血) 長管骨の基本構造と組成(細胞性要素と細胞間質) 		
2	1.細胞間質要素について学ぶ 2.骨の形成・改変過程について	<ul style="list-style-type: none"> 細胞間質の構成要素、コラーゲン線維の合成過程 緻密骨、海綿骨の形成と骨改変過程 		
3	1.骨の成長とモデリング 2.骨代謝(全身・局所的要請)について	<ul style="list-style-type: none"> 骨の成長と力学的要求に伴うモデリングとリモデリング 骨代謝における骨の吸収と形成連関 		
4	1.骨によるカルシウムとリンの貯蔵と放出 2.骨の血行について	<ul style="list-style-type: none"> カルシウムの摂取と排泄 ビタミンとホルモンによるカルシウムの全身的調整 		
5	1.骨折の分類とその特徴	<ul style="list-style-type: none"> 骨折の分類の定義 骨折発生時の応力の方向、スピードによる差 部位・程度・骨折線の走行・転位による骨折分類 		
6	1.長管骨骨折の一次性骨癒合の過程と条件 2.二次性骨癒合の過程とその条件	<ul style="list-style-type: none"> 一次性骨癒合の治癒過程とHaversian modelingについて 二次性骨癒合の治癒過程と仮骨フォーメーション 		
7	1.海綿骨の骨癒合について 2.骨折治療における観血的治療の方法	<ul style="list-style-type: none"> 海綿骨の骨癒合について 骨折治療における観血的治療の方法について 		
8	1.骨移植の病態生理について	<ul style="list-style-type: none"> 骨移植の分類と移植材料について 骨移植の病態生理(移植骨の生着の因子と過程、移植材料による生着の差) 		
9	1.軟骨の構造および組成 2.関節軟骨の荷重緩衝、潤滑機構について	<ul style="list-style-type: none"> 関節軟骨の立体構造 関節軟骨の組成(細胞と基質)と機能 荷重緩衝と潤滑機構 		
10	1.メカニカルストレスや軟骨マトリックスによる軟骨破壊のメカニズムについて	<ul style="list-style-type: none"> 軟骨の破壊のメカニズムの種類 メカニカルストレスによる磨耗 一次性変形性股関節症における力学的負担の考え方 		
11	1.軟骨の代謝と調整因子 2.軟骨の加齢による変化 3.軟骨損傷と自己修復機序	<ul style="list-style-type: none"> 軟骨の代謝回転と増殖因子 軟骨組成別の加齢による変化 外傷や不動による軟骨損傷の程度と修復機序 		
12	1.関節包の構造と機能 2.関節不動・外傷による関節包の変化	<ul style="list-style-type: none"> 関節包の線維膜、滑膜の構造と働き 関節不動による関節包の変化と手術後や外傷後の関節包の変化 		
13	1.滑液の組成と正常生理 2.関節不動・外傷による滑液の変化	<ul style="list-style-type: none"> 滑液の組成と疾患による変化 滑液の産生・運搬・吸収機構 		
14	1.関節軟骨の破壊と滑膜炎について 2.関節炎と関節水腫の関係、各疾患の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 関節炎の分類 関節炎による滑膜血液関門の破綻と関節水腫 		
15	1.滑液包の構造と滑液包炎について 2.膝関節水腫に対する理学療法	<ul style="list-style-type: none"> 滑液包の構造と分類、病理組織所見 膝関節水腫に対する理学療法評価と治療 		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> 機能障害学入門(神陵文庫) 配布資料 		期末試験 課題・レポート	90.0% 10.0%	【準備学習】 授業資料、テキストを用いて次回の授業内容を予習する。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法評価学 I		理学療法学科/1年	2019/前期	講義・実技
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	中内 英樹(実務経験有)
授業の概要				
理学療法評価の意義、目的と理学療法領域で必要な身体機能検査測定法について学ぶ。				
【実務経験】中内 英樹：理学療法士として5年以上の実務経験 急性期から訪問リハまでの理学療法業務で培った技術と経験を伝える。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 理学療法評価の目的を理解する。 ・ 理学療法評価の手順を理解する。 ・ 医療情報収集の仕方を理解する。 ・ 形態測定と関節可動域測定法を知る。 				
回	テーマ	内容		
1	理学療法評価総論 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理学療法評価の意義と目的 ・ 評価と障害・生活モデル 		
2	理学療法評価総論 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体像の把握 ・ 病態像と障害像 ・ 生活像とADL、QOL 		
3	理学療法評価総論 3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理学療法評価の展開 		
4	理学療法評価総論 4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理学療法評価の手順と過程 ・ 臨床思考過程 		
5	理学療法評価総論 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体例からの評価の理解 ・ 診療記録の見方 		
6	理学療法評価各論 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般的評価事項の構成と理解 		
7	理学療法評価各論 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般的評価事項の問診演習 		
8	形態測定 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 形態測定の目的 ・ ランドマーク触察 		
9	形態測定 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 四肢長計測 ・ 四肢周径計測 		
10	形態測定 3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 四肢計測トレーニング ・ 計測結果の統合と解釈 		
11	関節可動域測定 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関節可動域測定の目的と意義 ・ 基本的運動方向の理解 		
12	関節可動域測定 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関節可動域測定の基本的事項 ・ 上肢帯の他動運動練習 		
13	関節可動域測定 3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下肢帯の他動運動練習 ・ 股関節の可動域測定練習 		
14	関節可動域測定 4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 膝関節の可動域測定練習 ・ 足関節の可動域測定練習 		
15	関節可動域測定 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下肢帯の可動域測定練習 		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・ 理学療法評価学 (金原出版) 		実習・実技評価	100.0%	【準備学習】 次回の授業内容を踏まえ予習する。 発表がある時は準備すること。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法評価学Ⅱ		理学療法学科/1年	2019/後期	実技
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	中内 英樹(実務経験有)
授業の概要				
理学療法評価の意義、目的と理学療法領域で必要な身体機能検査測定法について学ぶ。				
【実務経験】中内 英樹：理学療法士として5年以上の実務経験 急性期から訪問リハまでの理学療法業務で培った技術と経験を伝える。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 関節可動域測定法を知る。 ・ 痛み検査の手順と評価方法を知る。 ・ 徒手筋力検査法を知る。 				
回	テーマ	内 容		
1	関節可動域測定 6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 肩甲帯の可動域測定練習 ・ 肩関節の可動域測定練習 		
2	関節可動域測定 7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 肩関節の可動域測定練習 ・ 肘関節の可動域測定練習 		
3	関節可動域測定 8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前腕、手、手指関節の可動域測定練習 ・ 上肢帯の可動域測定練習 		
4	痛みの評価 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 痛みの分類 ・ 痛みの検査手順と評価法 		
5	痛みの評価 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関節可動域検査と痛みの評価 		
6	筋力検査総論 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 徒手筋力検査の原理 ・ 徒手筋力検査の妥当性と限界 		
7	筋力検査総論 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 徒手筋力検査の手順 ・ 結果に影響を及ぼす因子 		
8	部位別徒手筋力検査(股関節1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検査実技 ・ 股関節屈曲、股関節屈曲・外転・外旋、内・外旋 		
9	部位別徒手筋力検査(股関節2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検査実技 ・ 股関節外転、股関節屈曲位外転、股関節伸展 		
10	部位別徒手筋力検査(膝関節)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検査実技 ・ 膝関節屈曲、膝関節伸展 		
11	部位別徒手筋力検査(足関節1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検査実技 ・ 足関節背屈、足関節背屈内がえし・外がえし 		
12	部位別徒手筋力検査(足関節2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検査実技 ・ 足関節底屈、足関節底屈、足関節内・外がえし 		
13	部位別徒手筋力検査(足指)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検査実技 ・ 母趾と足指の屈曲、伸展 		
14	下肢障害に対する徒手筋力検査 股関節～大腿骨骨折	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検査項目のピックアップとリスク管理 ・ 検査実技 		
15	下肢障害に対する徒手筋力検査 膝から下腿骨骨折	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検査項目のピックアップとリスク管理 ・ 検査実技 		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・ 理学療法評価学 (金原出版) ・ 新・徒手筋力検査 (協同医書出版) 		実習・実技評価	100.0%	【準備学習】 次回の授業内容を踏まえ予習する。 発表がある時は準備すること。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
体験見学実習		理学療法学科/1年	2019/後期	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
9時間	5回	1単位(45時間)	必須	田中 裕介、中嶋 志保 (実務経験有)

実習の概要

学校が連携している臨床経験3年以上の理学療法士が勤務する医療施設または介護保険サービス施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。

【実務経験】 田中 裕介：理学療法士として5年以上の実務経験
 中嶋 志保：理学療法士として5年以上の実務経験
 臨床実習指導者経験を基に、的確に学生をフォローする。

実習終了時の到達目標

- ・ 保険、医療、福祉の各分野の職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚を持った行動がとれる。
- ・ 臨床実習をとおして、自己の理学療法士としての自覚を高めることができる。
- ・ 実践的コミュニケーション能力の習得方法を学ぶ。
- ・ 模倣、実践、振り返りの中で修得方法を学ぶ。

実習内容

1. 各教育領域における実習内容

1) 情意領域の実習内容

- ・ 理学療法士による実践的コミュニケーションを体感する。
- ・ 患者様の命と人生を左右する臨床現場の中で、年代層や生活背景、人格や会話力など多種多様なケースに対し、専門家としての適切な振る舞いや対応、会話などを見学する。
- ・ 診療補助体験や、患者像・障害像の把握を目的とした情報収集や問診等の体験を通じて、専門家としてのあるべき姿に気づく。

2) 認知領域の実習内容

- ・ 理学療法士が、「どんな障害を対象に、どのような方法で、何を目的に、どの様な工夫や注意をしながら」理学療法を実施しているかを自ら聞きながら見学する。
- ・ 臨床実習指導者にヒントを与えてもらい、学内で学んだ知識を想起する。

3) 精神運動領域の実習内容

- ・ 評価学で学んだ形態測定、関節可動域測定を臨床実習指導者の指示監督のもと経験する。
- ・ 医療接遇等で学んだ面接相談技術を用いて、臨床実習指導者の指示監督のもと医療面接を経験する。

2. 目標達成のため教育ツールを使用する

1) 目標達成のため以下の①～③の教育ツールを使用する。

2) ①～③の教育ツールは、臨床実習指導者に毎日提出しチェックを受ける。

①Daily Report ②Clinical Record (Type1、Type2) ③自己学習ノート

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習の手引き ・ 学生の心得 ・ 配布資料 ・ Daily Report ・ Clinical Record ・ 自己学習ノート 	総括評定	100.0%	【準備学習】 実習の目的、各自の目標を明確にして臨み、毎日のまとめと予習を行うこと。